

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	流通経済大学
設置者名	学校法人 日通学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
経済学部	経済学科	夜・通信	8	6		14	13		
	経営学科	夜・通信				14	13		
社会学部	社会学科	夜・通信		4		2	14	13	
	国際観光学科	夜・通信				2	14	13	
流通情報学部	流通情報学科	夜・通信			6		14	13	
法学部	ビジネス法学科	夜・通信		6			14	13	
	自治行政学科	夜・通信					14	13	
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	夜・通信		2		4	14	13	
	スポーツコミュニケーション学科	夜・通信				4	14	13	
(備考) スポーツコミュニケーション学科は、完成年度を超えていない。現在、4学年まで在籍している。									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公表 https://www.rku.ac.jp/faculty/syllabus/
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	流通経済大学
設置者名	学校法人日通学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.rku.ac.jp/about/data/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(前職)会社役員	2019.6.1 ～2021.5.31	
非常勤	(現職)会社役員	2019.6.1 ～2021.5.31	
非常勤	(現職)会社役員	2019.6.1 ～2021.5.31	
非常勤	(現職)会社役員	2020.4.1 ～2021.5.31	
非常勤	(前職)他大学教授	2019.6.1 ～2021.5.31	
非常勤	(現職)公認会計士	2019.6.1 ～2021.5.31	
非常勤	(前職)大学職員	2019.6.1 ～2021.5.31	
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	流通経済大学
設置者名	学校法人日通学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)の作成について、教員に1月末から2月末までインターネットを利用して、シラバス入稿をお願いしている。 また、授業計画(シラバス)の公開は、学生の履修登録前の3月中旬に実施している。 各学部とも同様の取扱いをしている。	
授業計画書の公表方法	ホームページ https://www.rku.ac.jp/faculty/syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各学生の学修成果に基づき、試験の結果やレポートの内容などに基づいて学修成果を判定している。 また、学修成果に基づき、成績[合格 S(90点以上)、A(80~89点)、B(70~79点)、C(60~69点)、不合格 D(59点以下)、/(評価不能)]を判定している。 シラバスに記載した「成績評価の方法」により、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している。 各学部とも同様の取扱いをしている。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

GPAは、GPA対象授業科目のうち、履修登録した科目についてそれぞれの単位数にグレードポイント（4、3、2、1、0のいずれか）をかけ、その合計ポイントを単位数の総和で割ったものとなる。

成績評価に対するグレードポイントは下記の通りです。

評価	S	A	B	C	D	/	R
グレードポイント	4	3	2	1	0	0	適用除外

GPAは、学生の学習意欲を高めるとともに、本学が掲げる教育の質の保証について具体化を進め、適切な修学指導に資することを目的として実施している。

各学部とも同様の取扱いをしている。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

ホームページ

https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf

の各学部 2020 年度入学生

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

各学部学科のディプロマポリシーは、下記の通りです。

なお、全学部全学科とも、4年以上在学し、卒業判定で卒業に必要な所定の単位(124単位以上)を修得した学生は、卒業となる。

経済学部経済学科

経済学科は、学部の教育目的の下、「経済・社会情勢を的確に見極めるための基礎知識を持ち、実践の場においてこれを応用できる人材を養成」することを目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士(経済学)の学位を授与する。

1. 経済学の理論と現実の経済をバランスよく学習し、それにもとづいて課題に対応していく知識や能力、態度
2. 自分で考え、周囲の人とコミュニケーションを図りながら、問題を解決していく知識や能力、態度
3. 豊かな教養と社会の規範を身につけ、健全で充実した社会活動を行う知識や能力、態度

経済学部経営学科

経営学科は、学部の教育目的の下、産業がグローバル化する時代に通用する「起業およびマネジメントの実践ができる人材」を育成することを目指しており、学修計画と履修モデルにもとづき、所定の単位を修得し、以下のようなビジネスマネージャーに求められることになる知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士(経営学)の学位を授与する。

1. 新しい商品やサービスのイノベーション特性を抽出できる。
2. 営利または非営利の組織の一員として専門知識を適用し職務を遂行できる。
3. 多様で異なる価値観、役割および職種の顧客や同僚と協働できる。
4. 経営計画、商品開発や経営分析において自主的に取り組める。
5. 企業人として成果を追求しながら、社会人として継続的に学習できる。

社会学部社会学科

社会学科は、学部の教育目的の下、「産業、社会、文化、地域、教育、福祉等にかかわる諸問題に適切に対応しうる実証的な思考能力と行動力を備えた人材」を育成することを目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士(社会学)の学位を授与する。

1. 社会学を基盤とした実践的・実証的な社会科学の知識・技能、またその成果を社会に還元しようとする姿勢(実学主義)
2. 歴史、哲学、文学、自然科学などの基礎的教養科目を幅広く受講し、多様な視点からものごとを判断する能力(教養教育)、また専門的知識を体系的に受容する姿勢
3. 生涯学び成長し続けていくための土台を築き、卒業後のキャリアを自ら構想する能力(キャリア教育)
4. 実習・実験に基づいた社会学、心理学、社会福祉学、保育学のいずれかひとつ、または複数についての専門的知識・技能(実践主義)
5. 知識やスキルの活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、コミュニケーション能力、および自ら問題を発見し解決を試みる能動的な姿勢(少人数教育)

社会学部国際観光学科

国際観光学科は、学部の教育目的の下、「観光にかかわる生活、産業、社会、文化などの分野で、柔軟な思考能力と専門的な知識を備えて活躍する国際的人材

の養成」を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識、能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士(社会学)の学位を授与する。

1. 社会学的方法を基盤に実証的、実践的に観光を理解する。
2. グローバル化した現代の旅行業、その他観光産業において活躍できる英語コミュニケーション能力を身につける。
3. 国際文化、観光産業、地域イノベーションの三つの領域の一つにおいて、その現場で活躍できるレベルで観光を専門的に理解する。
4. 旅行業等の観光産業において有用な資格や技能を身につける。
5. 観光の仕事現場や、その他の社会生活の局面において、主体的に問題発見し、その解決に向けて行動できる人材を育成する。
6. 豊かな教養を基盤に、生涯に渡り主体的に考え行動できる社会人としての姿勢を身につける。

流通情報学部流通情報学科

流通情報学科では、学部の教育目的の下、「ロジスティクスの考え方を核として、広い視野を持って経済・社会システムをデザインすることができる人材の養成」を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を備えた学生の卒業を認定し、学士(流通情報学)の学位を授与する。

1. 物流・商流・情報の学際領域である流通情報学に関する幅広い知識と技能
2. 理論のみならず、様々な実践的な講座により培われる職務遂行能力
3. 流通情報学に関する知識や技能に基づく問題発見・解決能力
4. 豊かな教養や社会性、国際性、コミュニケーション能力

法学部ビジネス法学科

ビジネス法学科は、学部の教育目的の下、企業活動における法令遵守(コンプライアンス)や企業統治(コーポレート・ガバナンス)の現代的意義を深く理解し、実社会で活躍できる人材の育成を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士(法学)の学位を授与する。

1. さまざまな問題の解決に必要な法的思考能力(リーガル・マインド)
2. 企業活動における法令遵守(コンプライアンス)や企業統治(コーポレート・ガバナンス)に関する知識
3. グローバル時代に対応した法知識と能力
4. 幅広く奥行きのある教養および豊かな人間性に裏打ちされたコミュニケーション能力

法学部自治行政学科

自治行政学科は、学部の教育目的の下、公務員・NPO職員等として公共の一翼を担うことのできる人材、および地方自治に関わるさまざまな分野で活躍できる人材の育成を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士(法学)の学位を授与する。

1. 地方自治の発展、地域社会の活性化、住みよいまちづくりに関する知識
2. 公務員・NPO職員等として、行政その他公共の一翼を担うことのできる法的思考能力・政策形成能力
3. 会得した知識を活用し、地方自治や地域社会に関わるさまざまな分野で活躍できる能力
4. 幅広く奥行きのある教養および豊かな人間性に裏打ちされたコミュニケーション能力

スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科

スポーツ健康科学科は、学部の教育目的の下、「スポーツの競技力向上、青少年から高齢者にいたる健康の維持・増進活動、学校教育や社会教育の推進に寄与できる人材の養成」を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や技能、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（スポーツ健康科学）の学位を授与する。

1. 豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるとともに、生命教育を中心としたスポーツ健康科学の学問内容および方法を理解している。(知識)
2. 自ら設定した課題について、スポーツ健康科学の学問領域の知識を用いて考察し、自分の考えを口頭表現、文章表現や身体表現によつて的確に伝えることができる。(技能)
3. スポーツ健康科学の知を実践の力へと高め、地域社会および国際社会のニーズにこたえることができる。(態度)

スポーツ健康科学部スポーツコミュニケーション学科

スポーツコミュニケーション学科は、学部の教育目的の下、「スポーツをする・みる・ささえる人材のみでなく、広く社会一般においてスポーツから得た高度なコミュニケーション能力を活用できる人材の養成」を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（スポーツ健康科学）の学位を授与する。

1. スポーツ実践において必要となるコミュニケーション能力に関する知識・技能を身につけている
2. スポーツを通じて学習したコミュニケーション能力をはじめとする社会的能力を、広く社会で通用する汎用的能力へ転換できる
3. 「スポーツの力」を理解し、積極的にそれを社会貢献のために活用できる

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページ

https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf
の各学部 2020 年度入学生

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	流通経済大学
設置者名	学校法人日通学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページにて公表 https://www.rku.ac.jp/about/data/management/
収支計算書又は損益計算書	ホームページにて公表 https://www.rku.ac.jp/about/data/management/
財産目録	ホームページにて公表 https://www.rku.ac.jp/about/data/management/
事業報告書	ホームページにて公表 https://www.rku.ac.jp/about/data/management/
監事による監査報告(書)	ホームページにて公表 https://www.rku.ac.jp/about/data/management/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称: 学校法人日通学園 中期事業計画 対象年度: 2020~2024)	
公表方法: ホームページにて公表 https://www.rku.ac.jp/assets/images/about/vision2025.pdf	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページにて公表 https://www.rku.ac.jp/about/data/inspect/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: ホームページにて公表 https://www.rku.ac.jp/about/data/inspect/

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 経済学部
教育研究上の目的 (公表方法: ホームページ) https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf の経済学部 2020 年度入学生)
(概要) 経済学部では、経済学や経営学の専門知識を基礎に、広い国際的視野と的確な情報処理能力をそなえた教養ある人材の養成を目的とする。 経済学科では、経済・社会情勢を的確に見極めるための基礎知識を持ち、実践の場においてこれを応用できる人材の養成を目的とする。 経営学科では、経営学全般の基礎的理論の修得をはかり、さらに実践的教育をほどこすことを通して現場の多様な課題に対応できるスペシャリストの養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: ホームページ) https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf の経済学部 2020 年度入学生)
(概要) 経済学科 経済学科は、学部の教育目的の下、「経済・社会情勢を的確に見極めるための基礎知識を持ち、実践の場においてこれを応用できる人材を養成」することを目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士(経済学)の学位を授与する。 1. 経済学の理論と現実の経済をバランスよく学習し、それにもとづいて課題に対応していく知識や能力、態度 2. 自分で考え、周囲の人とコミュニケーションを図りながら、問題を解決していく知識や能力、態度 3. 豊かな教養と社会の規範を身につけ、健全で充実した社会活動を行う知識や能力、態度 経営学科 経営学科は、学部の教育目的の下、産業がグローバル化する時代に通用する「起業およびマネジメントの実践ができる人材」を育成することを目指しており、学修計画と履修モデルにもとづき、所定の単位を修得し、以下のようなビジネスマネージャーに求められることになる知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士(経営学)の学位を授与する。 1. 新しい商品やサービスのイノベーション特性を抽出できる。 2. 営利または非営利の組織の一員として専門知識を適用し職務を遂行できる。 3. 多様で異なる価値観、役割および職種の顧客や同僚と協働できる。 4. 経営計画、商品開発や経営分析において自主的に取り組める。 5. 企業人として成果を追求しながら、社会人として継続的に学習できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法: ホームページ) https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf の経済学部 2020 年度入学生)

(概要)

経済学科

経済学科では、ディプロマポリシーにおいて規定されている学位授与の要件である 3 つの能力を持つ人材を効果的に育成できるよう、育成したい能力に対応した、以下のようなカリキュラムを編成し、必要な科目を提供する。

1. 標準的な経済学教育の体系に沿って、基礎から専門まで一貫して学修できる積上げ型のカリキュラムに対応した専門基礎科目、および経済学の発展的知識および経済学に関連する多様な学問領域の専門知識を学修する専門発展科目
 - i) 体系的な経済学を学ぶ起点として、経済学の基礎理論に触れ、現実の経済現象への興味を喚起するための必修科目
 - ii) 経済学の専門的知識を積上げていくために必須となる、共通の知的基盤を形成するための科目
 - iii) 経済学の諸分野を学ぶために必須となる、分野に対応した専門基礎科目
 - iv) 経済学の応用・発展的分野を学ぶために必須となる、専門基礎科目と連動した専門発展科目
2. 周囲とコミュニケーションを図りながら、自ら問題を解決していく知識や能力、態度を身につけるために、演習、語学等の科目
 - i) コミュニケーション能力および課題を発見し解決する能力を育成するための演習
 - ii) 国際化社会において必須となる外国語によるコミュニケーション能力を学修する外国語科目
 - iii) 専門分野における知見と実学的な知見を融合し、ビジネスの現場で通用するコミュニケーション能力を高めるための科目
3. 市民社会の一員として必要不可欠な社会規範と教養を身に付け、健全な知的基盤を形成し、生涯学習へと発展させていく科目
 - i) 人文科学、社会科学、自然科学に対する理解を深める一般教養科目
 - ii) 生涯学習のための基礎的知識と、自己実現に向けた能動的な態度を育成するキャリア関連科目
 - iii) 社会人として必要な幅広い視野を身につけるために、経済学に関連の深い他の学部、学科の科目

経営学科

経営学科では、産業界が求めているグローバル人材を育成するために、教養のある人材であること、専門知識を英語で学んでいること、現役の経営幹部・実務者からビジネスの実態を学んでいることに対応したカリキュラム編成を基本とする。

そのうえで、本学の基本教育方針である全員ゼミ制度を発展させ、専門知識と教養を備えた応用力が発揮できるように、専門学修と教養学修を統合した4年間を一貫する演習（ゼミ）を開講する。

個々の学生と教員の間で、各自の目標を確実に実現すべく、学修方針や履修計画を立案できるようにする。

卒業研究では、下級生への報告会や指導演習を通して、グローバル時代に求められる集団適応力と自律した思考や行動を修得できるようにする。

4年間を一貫する演習（ゼミ）を中心に各科目を配置し、カリキュラムを系統化する。

専門科目として、学生の将来計画に対応すべく、起業やマネジメントに関する科目群、マーケティングや流通に関する科目群、会計やファイナンスに関する科目群を開講する。以下、具体的な開講科目は次の通りである。

1. 日常生活にかかわる商品・サービスを事例に実践的に経営の全体像を修得する科目を開講する。

2. 企業の実態に経営学の専門知識を適用し探求する科目を開講する。
3. 教養性と専門性ならびに倫理を総合的に学修する科目を開講する。
4. 専門3科目群の中に専門的知識を深める科目を開講する。
5. グローバル企業に求められる専門知識を英語で学ぶ科目を開講する。
6. 能動的学修や批判的思考を促進するための実習や演習が伴う科目を開講する。
7. 自立する企業人への準備として、研究成果などを発表し、審査を受ける科目を開講する。
8. 生涯にわたって学習が継続できる教養科目を開講する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.rku.ac.jp/admissions/admission_policy/

（概要）

経済学部は、情報化やグローバル化に対応して、経済学及び経営学（会計学）の専門知識のみならず、広い国際的視野と問題解決能力を備えた「グローバルに活躍できる視野の広い実業人」を育成し、社会に送り出すことを目標としている。

この目標を達成するため、基礎学力がある学生もさることながら、世界の経済社会の動向に関心を持ち、国内外の問題を解決して社会に貢献することに意欲的でチャレンジ精神に富む学生を求めている。

このような受け入れ方針のもと、経済学部では、全学共通で実施されている一般選抜や学校推薦型選抜に加えて、総合型選抜を導入し、様々な入学選抜方法を利用している。

経済学部が具体的に求める学生像は、以下のとおりである。

1. 知識・理解力…高等学校で学習する国語、英語、地理歴史、公民、数学などについて、高等学校卒業相当の知識を有し、それらの基本的内容を理解している学生。
2. 関心・意欲…経済に関する諸問題または企業経営に関する問題に関心を持ち、大学で学ぶ知識や技能を実践して社会問題を解決する目的を有するとともに、大学で学んだ知識や技能を自分の将来や社会に役立てたいという意欲がある学生。
3. 思考・表現力…社会のさまざまな問題を多面的かつ総合的に考察し、自分なりの判断を下すことができるとともに、自分の知識や意見を他者に分かりやすく表現することができる学生。

経済学科

経済学科では、将来の自分の目標が定まり、それに向かって前進していく学生のみならず、自分の進路がまだ確定しておらず、経済学科での幅広い学びの中から将来を決めていきたいという「自己探索」の途上にある学生も積極的に受け入れたいと考えている。

経営学科

経営学科は、ネットビジネス時代における人々の欲求の変化に気づき、卒業後に企業人になれる協調性を持った学生の入学を歓迎する。

また、次のような将来計画をもった学生の入学を期待している。

1. ベンチャー経営者、自営業・家業、起業やコンサルタントを目指す人。
2. 中小企業や大企業の中堅幹部を目指す人。

3. NPO など非営利組織で経営に関する専門知識やマネジメント能力を活用したい人。
4. 経理担当職、金融機関の職種、税理士、会計士、会計大学院進学、経営大学院進学を目指す人。
5. 流通業、サービス業、製造業、IT業などの業界で活躍したい人。
6. 各種スポーツを継続し、スポーツ関連産業などで活躍したい人。

学部等名 社会学部
教育研究上の目的 (公表方法: ホームページ) https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf の社会学部 2020 年度入学生)
(概要) 社会学部では、社会学的な素養を十分に身に付けた高度の教養人の養成を目的とする。 社会学科では、産業、社会、文化、地域、教育、福祉等にかかわる諸問題に適切に対応しうる実証的な思考能力と行動力を備えた人材の養成を目的とする。 国際観光学科では、観光に関わる生活、産業、社会、文化などの分野で、柔軟な思考能力と専門的な知識を備えて活躍する国際的人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: ホームページ) https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf の社会学部 2020 年度入学生)
(概要) 社会学科 社会学科は、学部の教育目的の下、「産業、社会、文化、地域、教育、福祉等にかかわる諸問題に適切に対応しうる実証的な思考能力と行動力を備えた人材」を育成することを目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士(社会学)の学位を授与する。 1. 社会学を基盤とした実践的・実証的な社会科学の知識・技能、またその成果を社会に還元しようとする姿勢(実学主義) 2. 歴史、哲学、文学、自然科学などの基礎的教養科目を幅広く受講し、多様な視点からものごとを判断する能力(教養教育)、また専門的知識を体系的に受容する姿勢 3. 生涯学び成長し続けていくための土台を築き、卒業後のキャリアを自ら構想する能力(キャリア教育) 4. 実習・実験に基づいた社会学、心理学、社会福祉学、保育学のいずれかひとつ、または複数についての専門的知識・技能(実践主義) 5. 知識やスキルの活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、コミュニケーション能力、および自ら問題を発見し解決を試みる能動的な姿勢(少人数教育)
国際観光学科 国際観光学科は、学部の教育目的の下、「観光にかかわる生活、産業、社会、文化などの分野で、柔軟な思考能力と専門的な知識を備えて活躍する国際的人材の養成」を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識、能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士(社会学)の学位を授与する。 1. 社会学的方法を基盤に実証的、実践的に観光を理解する。 2. グローバル化した現代の旅行業、その他観光産業において活躍できる英語コ

コミュニケーション能力を身につける。

3. 国際文化、観光産業、地域イノベーションの三つの領域の一つにおいて、その現場で活躍できるレベルで観光を専門的に理解する。
4. 旅行業等の観光産業において有用な資格や技能を身につける。
5. 観光の仕事現場や、その他の社会生活の局面において、主体的に問題発見し、その解決に向けて行動できる人材を育成する。
6. 豊かな教養を基盤に、生涯に渡り主体的に考え行動できる社会人としての姿勢を身につける。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf

の社会学部 2020 年度入学生)

(概要)

社会学科

社会学科では、学部の教育目的を達成するために、以下のような方針でカリキュラムを編成している。

1. 社会学を基盤とし、実践的・実証的な社会科学の知識・技能を身につけることができるように社会学の基礎・調査法等の科目を配置する。
2. 専門的知識を体系的に学ぶための基盤を身につけることができるように、歴史、哲学、文学、自然、健康などの教養科目（基礎・発展）・語学科目・情報処理科目・スポーツ健康科目を幅広く配置する。
3. 生涯学び成長し続けていくための土台を築くことができるように、キャリア科目、インターンシップ科目を配置する。
4. 社会学、心理学、社会福祉学、保育学の領域において、専門的な知識・技能を身につけることができるように、専門科目（講義）及び実習・演習科目を配置する。
5. コミュニケーション能力を育成するとともに、自ら問題を発見し解決を試みる能動的な姿勢をもつことができるように、1年次から4年次まで演習を配置する。また、卒業論文を課すことによって、各自の学習成果を社会に還元できるようにする。
6. 人間・社会・自然に対する理解を深め、豊かな教養を育むために、他学部・他学科の科目を配置する。

国際観光学科

国際観光学科では、学部の教育目的を達成するために、以下のような方針でカリキュラムを編成している。

1. 社会学的方法を基礎に観光を学修するという観点から、学科基礎科目として観光概論と社会学概論を、研究基礎科目として観光社会学、社会調査法等の科目を配置する。
2. 英語によるコミュニケーション能力を高めるために、外国語科目の他に、学科の必修科目として観光英語を配置する。
3. 国際文化、観光産業、地域イノベーションの三つのモデルを配置し、それぞれの領域において専門的知識を体系的に学修できるよう、講義科目を配置する。
4. 旅行業等の観光産業において必要とされる資格の取得を促すために、その導入科目を配置する。
5. 観光を通じた国際交流、観光産業におけるプロの仕事の体感、地域における観光町づくりへの参加等、多様な観光に関連する現場における主体的かつ実践的な学修が可能となるよう、複数のプログラムを用意したプロジェクト学習を

配置する。

6. 専門分野である観光に対する理解をより深めるために、社会、経済、経営、法学等において関連する科目を配置する。
7. 主体的に問題を発見し解決する能力を段階的に育成するために、1年次から4年次まで、演習（ゼミ）を配置する。また、4年次には、問題発見、解決過程の論理的な表現として卒業論文を課す。
8. 生涯に渡り、主体的、能動的に生きる姿勢を養うために、キャリア関連科目を配置する。
9. 社会人として幅広い視野を身につけるとともに、専門分野としての観光を体系的に学ぶ基盤を作るために、教養基礎科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.rku.ac.jp/admissions/admission_policy/

（概要）

社会学部は、広く、人間社会のあり方や人間社会の出来事に着目し、さまざまな社会集団や組織、国や地域の歴史や文化、人間やその関係の在り方、価値観の多様性などについて学びたい学生の入学を期待している。ただし、基礎学力もさることながら、柔軟な思考力をもって他者と協力し社会に貢献しようとする姿勢を重視している。

このような受け入れ方針のもと、社会学部では、全学共通で実施されている一般選抜や学校推薦型選抜に加えて、総合型選抜を導入し、様々な入学選抜方法を採用している。

社会学部が求める学生像は、以下の通りである。

1. 知識・理解力…高等学校で学習する学科目について、高等学校卒業相当の知識を有している。
2. 関心・意欲…人や社会に関わる問題や現象に関心を持ち、人および社会について幅広く学び、必要な技能を身につける意欲を持っている。
3. 共感力・行動力…人や社会が抱える諸問題に共感し、問題解決のために他者と協力して行動しようとする姿勢を持っている。
4. 思考・表現力…社会のさまざまな問題を多面的かつ総合的に考察し、自分なりの判断を下すことができるとともに、自分の知識や意見を他者に分かりやすく表現することができる。

社会学科

社会学科では、社会学を基盤とし、社会の様々な問題に適切に対応しうる実践的・実証的な思考能力と行動力とを身につけたい学生、また社会学、心理学、社会福祉学、保育学のいずれかひとつ、または複数について、実習・実験に基づいた専門的知識・技能を習得したい学生を受け入れている。

国際観光学科

国際観光学科では、観光学および社会学的観点からの基礎的理解を身につけ、観光にかかわる生活、産業、社会、文化の諸領域で、柔軟な思考能力と専門的な知識を備えて、国際的に活躍したい学生を受け入れている。

学部等名 流通情報学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf の流通情報学部 2020 年度入学生)
(概要) 流通情報学部では、情報科学と流通科学との有機的統合をはかり、情報社会における流通の高度化に寄与する人材の養成を目的とする。 流通情報学科では、ロジスティクスの考え方を核として、広い視野を持って経済・社会システムをデザインすることができる人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf の流通情報学部 2020 年度入学生)
(概要) 流通情報学科 流通情報学科では、学部の教育目的の下、「ロジスティクスの考え方を核として、広い視野を持って経済・社会システムをデザインすることができる人材の養成」を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を備えた学生の卒業を認定し、学士（流通情報学）の学位を授与する。 1. 物流・商流・情報の学際領域である流通情報学に関する幅広い知識と技能 2. 理論のみならず、様々な実践的な講座により培われる職務遂行能力 3. 流通情報学に関する知識や技能に基づく問題発見・解決能力 4. 豊かな教養や社会性、国際性、コミュニケーション能力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf の流通情報学部 2020 年度入学生)
(概要) 流通情報学科 流通情報学科では、学科の教育目的を達成するために、以下のような方針でカリキュラムを提供する。 1. 人文、地域、社会、自然、健康などの教養科目、外国語科目ならびにキャリア科目など、広い視野を持ち、豊かな教養の素地を身につけるための科目群 2. 流通情報学における商流および経営分野の専門知識を修得するための科目群 3. 流通情報学における物流・ロジスティクスの専門知識を修得するための科目群 4. 流通情報学における情報処理ならびに情報活用技術を修得するための科目群 5. 実際の現場の状況把握、その分析・評価を行う知識・技術を修得するための科目群 6. コミュニケーション能力および課題発見・解決能力を修得するための科目群
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ） https://www.rku.ac.jp/admissions/admission_policy/
(概要) 流通情報学科は、「実学主義に基づいた教育」を实践し、流通情報分野における専門的知識を有し、即戦力として企業が求める人材、ロジスティクスの考え方を核に、広い視野に立ち、経済・社会システムをデザインできる人材の育成を目指しており、一般選抜や学校推薦型選抜、総合型選抜などの複数の入試方式によって、こうした方針に共感する学生を受け入れている。

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ） https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf の法学部 2020 年度入学生)
(概要) 法学部では、法律の知識に基づく論理的思考やバランス感覚を身に付け、幅広く奥行きのある教養と人間性をも備えた人材の養成を目的とする。 ビジネス法学科では、企業活動における法令遵守や企業統治の現代的意義を深く理解し、ビジネス界で実践できる人材の養成を目的とする。 自治行政学科では、地方自治を担う人材を養成すべく、専門の法律や政治・行政について理解し、地方自治に関わる分野で、法的思考力や政策形成能力を発揮できる人材の養成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf の法学部 2020 年度入学生)
(概要) ビジネス法学科 ビジネス法学科は、学部の教育目的の下、企業活動における法令遵守（コンプライアンス）や企業統治（コーポレート・ガバナンス）の現代的意義を深く理解し、実社会で活躍できる人材の育成を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（法学）の学位を授与する。 1. さまざまな問題の解決に必要な法的思考能力（リーガル・マインド） 2. 企業活動における法令遵守（コンプライアンス）や企業統治（コーポレート・ガバナンス）に関する知識 3. グローバル時代に対応した法知識と能力 4. 幅広く奥行きのある教養および豊かな人間性に裏打ちされたコミュニケーション能力 自治行政学科 自治行政学科は、学部の教育目的の下、公務員・NPO 職員等として公共の一翼を担うことのできる人材、および地方自治に関わるさまざまな分野で活躍できる人材の育成を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（法学）の学位を授与する。 1. 地方自治の発展、地域社会の活性化、住みよいまちづくりに関する知識 2. 公務員・NPO 職員等として、行政その他公共の一翼を担うことのできる法的思考能力・政策形成能力 3. 会得した知識を活用し、地方自治や地域社会に関わるさまざまな分野で活躍できる能力 4. 幅広く奥行きのある教養および豊かな人間性に裏打ちされたコミュニケーション能力
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ） https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf の法学部 2020 年度入学生)

(概要)

ビジネス法学科

学部の教育目的を達成するとともに、ディプロマポリシーが求める人材養成方針を満たすために、ビジネス法学科では以下のような科目を提供する。

1. 法と政治の制度の枠組みを知る科目
2. 法的思考の基礎となる知識を学ぶ科目
3. ビジネス活動に関わる法的知識を学ぶ科目
4. 企業活動における法令遵守・企業統治の実践に必要な知識を学ぶ科目
5. 法とビジネスを深く理解するための背景知識および関連知識を学ぶ科目
6. 企業活動における法的な問題を発見し、解決の筋道を考える能力を身につける科目
7. 対話・討論を通じて自らの思考を表現する能力を身につける科目

自治行政学科

学部の教育目的を達成するとともに、ディプロマポリシーが求める人材養成方針を満たすために、自治行政学科では以下のような科目を提供する。

1. 法と政治の制度の枠組みを知る科目
2. 法的思考・政策形成能力の基礎となる知識を学ぶ科目
3. 地方における公共的な活動に関わる法的・政策的知識を学ぶ科目
4. 地域社会への貢献に必要な知識を学ぶ科目
5. 地域社会のあり方を深く理解するための背景知識および関連知識を学ぶ科目
6. 地方自治・地域社会の課題を発見し、解決の道筋を考える能力を身につける科目
7. 対話・討論を通じて自らの思考を表現する能力を身につける科目

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.rku.ac.jp/admissions/admission_policy/

(概要)

ビジネス法学科

ビジネス法学科は、「企業活動における法令遵守」（コンプライアンス）や「企業統治」（コーポレート・ガバナンス）の現代的意義を深く理解し、ビジネス社会で活躍できる人材の育成を目指している。そして、「実学主義」をうたう本学の教育方針の下、本学科の教育理念を理解して、リーガル・マインドを身につけて法令遵守および企業統治の現代的意義を学ぶ意欲を持つとともに、ビジネスの第一線で活躍することを目指す人材を求めている。

このような人材を幅広く受け入れることを目的として、ビジネス法学科は、一般選抜や学校推薦型選抜、総合型選抜などの複数の入試方法により、多角的な視点から選抜を行い、上記のような学生を受け入れる。

自治行政学科

自治行政学科は、地方公務員・NPO職員等として公共の一翼を担うことのできる人材および地方自治に関わるさまざまな分野で活躍できる人材の育成を目指している。そして、「実学主義」をうたう本学の教育方針の下、本学科の教育理念を理解して、政策形成能力を身につける意欲を持つとともに、地域貢献を積極的に行い、地域の人々とコミュニケーションをはかる能力を獲得して、公共の分野で活躍することを目指す人材を求めている。

このような人材を幅広く受け入れることを目的として、自治行政学科は、一般選抜や学校推薦型選抜、総合型選抜などの複数の入試方法により、多角的な視点から選抜を行い、上記のような学生を受け入れる。

<p>学部等名 スポーツ健康科学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf のスポーツ健康科学部 2020 年度入学生)</p>
<p>(概要)</p> <p>スポーツ健康科学部では、スポーツと健康の領域に関して、人間力と生命の尊厳を柱に多様な経験と専門的知識をもって諸問題を積極的に解決できる人材の養成を目的とする。</p> <p>スポーツ健康科学科では、スポーツの競技力向上、青少年から高齢者にいたる健康の維持・増進活動、学校教育や社会教育の推進に寄与できる人材の養成を目的とする。</p> <p>スポーツコミュニケーション学科では、スポーツをする・みる・ささえる人材のみでなく、広く社会一般においてスポーツから得た高度なコミュニケーション能力を活用できる人材の養成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ）</p> <p>https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf のスポーツ健康科学部 2020 年度入学生)</p>
<p>(概要)</p> <p>スポーツ健康科学科</p> <p>スポーツ健康科学科は、学部の教育目的の下、「スポーツの競技力向上、青少年から高齢者にいたる健康の維持・増進活動、学校教育や社会教育の推進に寄与できる人材の養成」を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や技能、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（スポーツ健康科学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるとともに、生命教育を中心としたスポーツ健康科学の学問内容および方法を理解している。（知識） 2. 自ら設定した課題について、スポーツ健康科学の学問領域の知識を用いて考察し、自分の考えを口頭表現、文章表現や身体表現によつて的確に伝えることができる。（技能） 3. スポーツ健康科学の知を実践の力へと高め、地域社会および国際社会のニーズにこたえることができる。（態度） <p>スポーツコミュニケーション学科</p> <p>スポーツコミュニケーション学科は、学部の教育目的の下、「スポーツをする・みる・ささえる人材のみでなく、広く社会一般においてスポーツから得た高度なコミュニケーション能力を活用できる人材の養成」を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（スポーツ健康科学）の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ実践において必要となるコミュニケーション能力に関する知識・技能を身につけている 2. スポーツを通じて学習したコミュニケーション能力をはじめとする社会的能力を、広く社会で通用する汎用的能力へ転換できる 3. 「スポーツの力」を理解し、積極的にそれを社会貢献のために活用できる

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www2.rku.ac.jp/class/course_summary/mokuji.pdf

のスポーツ健康科学部 2020 年度入学生)

(概要)

スポーツ健康科学科

スポーツ健康科学科では、建学の理念に基づく教育理念に則り、「スポーツの競技力向上、青少年から高齢者にいたる健康の維持・増進活動、学校教育や社会教育の推進に寄与できる人材の養成」を目標にカリキュラムを構成している。

今日の社会事象を鑑みると、スポーツを専門に学んだ学生が社会において活躍する為には、学問を横断的に学ぶ必要がある。従って、特にコースという縛りを設けず、「専門基礎科目」と「専門発展科目」の科目群で、幅広い知識の修得を目指す。具体的な開講科目は次の通りである。

1. 上記で示した人材育成を図る為に、「生命いのちの尊厳」と「人間力」を持った人材の育成を特に重視し、必修科目においてこれらの力を創造していく。またコミュニケーション能力および課題発見・解決能力を育成するため、1年次から4年次まで演習科目を配置する。
2. 国際化社会において必須となる外国語によるコミュニケーション能力を育成する科目を配置する。
3. 生涯学習のための基礎的知識と、自己実現に向けた能動的な姿勢を育成するキャリア関連科目を配置する。
4. 人文科学、社会科学、自然科学に対する理解を深める教養科目を配置する。
5. 専門基礎科目では、今日、スポーツ科学を構成している学問を幅広く修得させる。
6. 専門発展科目では、発展的かつより専門性を持った科目でカリキュラムを構成する。
7. スポーツの競技力向上を図る科目を配置する。

スポーツコミュニケーション学科

スポーツコミュニケーション学科では、前述した「ディプロマポリシー」等を踏まえて、以下の「カリキュラムポリシー」に則り、科目を区分、構成している。

1. 学部の基盤となるスポーツ健康科学の基礎を学修するために、学部必修科目、学部基礎科目を配置する。
2. 学科の基盤となるスポーツコミュニケーションの基礎を学修するために、学科必修科目と学科基礎科目を配置する。
3. スポーツに関連したコミュニケーションを学修するために、3つの専門領域（マネジメント領域、情報・メディア領域、コーチング領域）を配置する。
4. 学科必修科目や専門発展科目では、課題発見・解決能力、論理的思考力や多様な観点から考察する能力を育むために、演習や実習を重視し、実践を通して体系的に学修できるように年次配当をする。
5. 幅広い教養と豊かな人間性を涵養し、総合的な表現力を培うために、外国語科目、キャリア科目、教養基礎科目を配置する。
6. アドベンチャー精神とフォロワーシップ精神を持った人材を養成するために、体育・スポーツ学と「人と人・組織・社会との関係」を中心としたコミュニケーション研究を関連付けて学修できるように、ゼミや学科基礎科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.rku.ac.jp/admissions/admission_policy/

（概要）

スポーツ健康科学科

スポーツ健康科学科では、「実学主義」という本学の教育方針に基づき、スポーツ・健康に関する実践を通じて、見る力、伝える力、決断する力、全力を出し切る力、省みる力を育む。また、自他を認め、自ら考え、自ら行動できる能力を身に付け、あらゆる精神に対して崇高の念を持ち、人間として優しさや思いやりの心、たくましい精神を持つことができる人材育成を目指している。

この学部・学科の教育理念に賛同し、スポーツ・健康に興味・関心を持ち、スポーツを通じて人間性を磨きたいと考え、スポーツで社会貢献したいという意思があり、大学生活4年間で意欲的にチャレンジし続けられる学生を求めている。

このような人材を幅広く受け入れるべくスポーツ健康科学科においても、一般選抜や学校推薦型選抜、総合型選抜などの複数の入試方法により、学生を受け入れている。

スポーツコミュニケーション学科

- ・スポーツコミュニケーション学科の教育理念に賛同している。
- ・スポーツから得られるコミュニケーション能力に対して高い関心を持っている。
- ・スポーツの価値を自身の成長と実社会において広く活用することに意欲的である。

スポーツコミュニケーション学科では、スポーツの持つ多様な価値のうち、とりわけその社会性と国際性に着目し、スポーツをテーマとする学修やスポーツ実践の場を通じて、コミュニケーションに関する専門的な知識と技能、態度を修得することを目的としている。

このことから、本学科に入学する学生像としては、まず何よりもスポーツが好きであること、そしてスポーツから得られるコミュニケーション能力に対して高い関心を持ち、それを自身の成長と実社会において広く活用することに意欲的であってほしい。したがって、入学者の選抜に際しては、学力考査はもとより、志望理由や、知・徳・体の人間的な総合力を測るための多様な選抜方式を整備している。

特に、本学科の教育課程の編成は、今後さらに高度なコミュニケーション能力が必要とされると思われる幅広い分野に対応しており、希望する進路が明確な学生を積極的に受け入れたい。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページにて公表

<https://www.rku.ac.jp/about/data/organizations/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
	1人	—					1人
経済学部	—	18人	17人	4人	2人	0人	41人
社会学部	—	18人	10人	3人	3人	0人	34人
流通情報学部	—	13人	6人	2人	1人	0人	22人
法学部	—	14人	6人	3人	4人	0人	27人
スポーツ健康科学部	—	21人	10人	1人	5人	0人	37人
物流科学研究所		0人	1人	0人	0人	0人	1人

b. 教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	195人	195人

各教員の有する学位及び業績
(教員データベース等)

公表方法：ホームページにて公表

<https://www.rku.ac.jp/faculty/professors/>

c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

2020.02 2019年度 第2回全学科一斉FD研修会
 2020.01 2019年度 秋学期授業アンケート
 2019.09 2019年度 新任教員のフォローアップ研修会
 2019.09 2019年度 学外FD研修および本学での取り組み事例の発表
 2019.07 2019年度 第1回全学科一斉FD研修会
 2019.07 2019年度 春学期授業アンケート

 2019.03 2018年度 第2回全学科一斉FD研修会
 2019.01 2018年度 秋学期授業アンケート
 2018.09 2018年度 新任教員のフォローアップ研修会
 2018.09 2018年度 学外FD研修および本学での取り組み事例の発表
 2018.07 2018年度 第1回全学科一斉FD研修会
 2018.07 2018年度 春学期授業アンケート

 2018.03 2017年度 第2回全学科一斉FD研修会
 2018.01 2017年度 秋学期授業アンケート
 2017.09 2017年度の新任教員フォローアップ研修会
 2017.07 2017年度 第1回全学科一斉FD研修会
 2017.07 2017年度 春学期授業アンケート

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
経済学部	370 人	434 人	117%	1,480 人	1,662 人	112%	人	人
社会学部	250 人	276 人	110%	1,040 人	1,098 人	105%	20 人	3 人
流通情報学部	130 人	155 人	119%	520 人	601 人	115%	人	人
法学部	200 人	232 人	116%	840 人	919 人	109%	20 人	人
スポーツ 健康科学部	300 人	303 人	101%	1,200 人	1,201 人	100%	人	人
合計	1,250 人	1,400 人	112%	5,080 人	5,481 人	107%	40 人	3 人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
経済学部	382 (100%) 人	2 (0.5%) 人	327 (85.6%) 人	53 (13.9%) 人
社会学部	260 (100%) 人	1 (0.4%) 人	225 (86.5%) 人	34 (13.1%) 人
流通情報学部	131 (100%) 人	1 (0.8%) 人	111 (84.7%) 人	19 (14.5%) 人
法学部	206 (100%) 人	3 (1.5%) 人	178 (86.4%) 人	25 (12.1%) 人
スポーツ 健康科学部	215 (100%) 人	6 (2.8%) 人	195 (90.7%) 人	14 (6.5%) 人
合計	1194 (100%) 人	13 (1.1%) 人	1036 (86.8%) 人	145 (12.1%) 人
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 日本通運(株)、(株)JT B、日本生命保険相互会社、(株)常陽銀行、清水建設(株)、他				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)の作成について、教員に1月末から2月末までインターネットを利用して、シラバス入稿をお願いしている。

また、授業計画(シラバス)の公開は、学生の履修登録前の3月中旬に実施している。各学部とも同様の取扱いをしている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

学修の成果に係る評価について、各学生の学修成果に基づき、試験の結果やレポートの内容などに基づいて学修成果を判定している。

また、学修成果に基づき、成績[合格 S(90点以上)、A(80~89点)、B(70~79点)、C(60~69点)、不合格 D(59点以下)、/(評価不能)]を判定している。

シラバスに記載した「成績評価の方法」により、厳格かつ適正に単位授与又は履修認定を実施している。

各学部とも同様の取扱いをしている。

卒業又は修了の認定に当たっての基準について、各学部学科のディプロマポリシーは、下記の通りです。

なお、全学部全学科とも、4年以上在学し、卒業判定で卒業に必要な所定の単位(124単位以上)を修得した学生は、卒業となる。

経済学部 経済学科

経済学科は、学部の教育目的の下、「経済・社会情勢を的確に見極めるための基礎知識を持ち、実践の場においてこれを応用できる人材を養成」することを目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士(経済学)の学位を授与する。

1. 経済学の理論と現実の経済をバランスよく学習し、それにもとづいて課題に対応していく知識や能力、態度
2. 自分で考え、周囲の人とコミュニケーションを図りながら、問題を解決していく知識や能力、態度
3. 豊かな教養と社会の規範を身につけ、健全で充実した社会活動を行う知識や能力、態度

経済学部 経営学科

経営学科は、学部の教育目的の下、産業がグローバル化する時代に通用する「起業およびマネジメントの実践ができる人材」を育成することを目指しており、学修計画と履修モデルにもとづき、所定の単位を修得し、以下のようなビジネスマネージャーに求められることになる知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（経営学）の学位を授与する。

1. 新しい商品やサービスのイノベーション特性を抽出できる。
2. 営利または非営利の組織の一員として専門知識を適用し職務を遂行できる。
3. 多様で異なる価値観、役割および職種の顧客や同僚と協働できる。
4. 経営計画、商品開発や経営分析において自主的に取り組める。
5. 企業人として成果を追求しながら、社会人として継続的に学習できる。

社会学部 社会学科

社会学科は、学部の教育目的の下、「産業、社会、文化、地域、教育、福祉等にかかわる諸問題に適切に対応しうる実証的な思考能力と行動力を備えた人材」を育成することを目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（社会学）の学位を授与する。

1. 社会学を基盤とした実践的・実証的な社会科学の知識・技能、またその成果を社会に還元しようとする姿勢（実学主義）
2. 歴史、哲学、文学、自然科学などの基礎的教養科目を幅広く受講し、多様な視点からものごとを判断する能力（教養教育）、また専門的知識を体系的に受容する姿勢
3. 生涯学び成長し続けていくための土台を築き、卒業後のキャリアを自ら構想する能力（キャリア教育）
4. 実習・実験に基づいた社会学、心理学、社会福祉学、保育学のいずれかひとつ、または複数についての専門的知識・技能（実践主義）
5. 知識やスキルの活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、コミュニケーション能力、および自ら問題を発見し解決を試みる能動的な姿勢（少人数教育）

社会学部 国際観光学科

国際観光学科は、学部の教育目的の下、「観光にかかわる生活、産業、社会、文化などの分野で、柔軟な思考能力と専門的な知識を備えて活躍する国際的人材の養成」を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識、能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（社会学）の学位を授与する。

1. 社会学的方法を基盤に実証的、実践的に観光を理解する。
2. グローバル化した現代の旅行業、その他観光産業において活躍できる英語コミュニケーション能力を身につける。
3. 国際文化、観光産業、地域イノベーションの三つの領域の一つにおいて、その現場で活躍できるレベルで観光を専門的に理解する。
4. 旅行業等の観光産業において有用な資格や技能を身につける。
5. 観光の仕事現場や、その他の社会生活の局面において、主体的に問題発見し、その解決に向けて行動できる人材を育成する。
6. 豊かな教養を基盤に、生涯に渡り主体的に考え行動できる社会人としての姿勢を身につける。

流通情報学部 流通情報学科

流通情報学科では、学部の教育目的の下、「ロジスティクスの考え方を核として、広い視野を持って経済・社会システムをデザインすることができる人材の養成」を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を備えた学生の卒業を認定し、学士（流通情報学）の学位を授与する。

1. 物流・商流・情報の学際領域である流通情報学に関する幅広い知識と技能

2. 理論のみならず、様々な実践的な講座により培われる職務遂行能力
3. 流通情報学に関する知識や技能に基づく問題発見・解決能力
4. 豊かな教養や社会性、国際性、コミュニケーション能力

法学部 ビジネス法学科

ビジネス法学科は、学部の教育目的の下、企業活動における法令遵守（コンプライアンス）や企業統治（コーポレート・ガバナンス）の現代的意義を深く理解し、実社会で活躍できる人材の育成を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（法学）の学位を授与する。

1. さまざまな問題の解決に必要な法的思考能力（リーガル・マインド）
2. 企業活動における法令遵守（コンプライアンス）や企業統治（コーポレート・ガバナンス）に関する知識
3. グローバル時代に対応した法知識と能力
4. 幅広く奥行きのある教養および豊かな人間性に裏打ちされたコミュニケーション能力

法学部 自治行政学科

自治行政学科は、学部の教育目的の下、公務員・NPO 職員等として公共の一翼を担うことのできる人材、および地方自治に関わるさまざまな分野で活躍できる人材の育成を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（法学）の学位を授与する。

1. 地方自治の発展、地域社会の活性化、住みよいまちづくりに関する知識
2. 公務員・NPO 職員等として、行政その他公共の一翼を担うことのできる法的思考能力・政策形成能力
3. 会得した知識を活用し、地方自治や地域社会に関わるさまざまな分野で活躍できる能力
4. 幅広く奥行きのある教養および豊かな人間性に裏打ちされたコミュニケーション能力

スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科

スポーツ健康科学科は、学部の教育目的の下、「スポーツの競技力向上、青少年から高齢者にいたる健康の維持・増進活動、学校教育や社会教育の推進に寄与できる人材の養成」を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や技能、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（スポーツ健康科学）の学位を授与する。

1. 豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるとともに、生命教育を中心としたスポーツ健康科学の学問内容および方法を理解している。（知識）
2. 自ら設定した課題について、スポーツ健康科学の学問領域の知識を用いて考察し、自分の考えを口頭表現、文章表現や身体表現によつて的確に伝えることができる。（技能）
3. スポーツ健康科学の知を実践の力へと高め、地域社会および国際社会のニーズにこたえることができる。（態度）

スポーツ健康科学部 スポーツコミュニケーション学科

スポーツコミュニケーション学科は、学部の教育目的の下、「スポーツをする・みる・ささえる人材のみでなく、広く社会一般においてスポーツから得た高度なコミュニケーション能力を活用できる人材の養成」を目指しており、所定の単位を修得し、以下のような知識や能力、態度を身につけた学生の卒業を認定し、学士（スポーツ健康科学）の学位を授与する。

1. スポーツ実践において必要となるコミュニケーション能力に関する知識・技能を身につけている
2. スポーツを通じて学習したコミュニケーション能力をはじめとする社会的能力を、広く社会で通用する汎用的能力へ転換できる
3. 「スポーツの力」を理解し、積極的にそれを社会貢献のために活用できる

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
経済学部	経済学科	124 単位	㊦・無	1・2 学年 44 単位 3・4 学年 49 単位
	経営学科	124 単位	㊦・無	1・2 学年 44 単位 3・4 学年 49 単位
社会学部	社会学科	124 単位	㊦・無	1・2 学年 44 単位 3・4 学年 49 単位
	国際観光学科	124 単位	㊦・無	1・2 学年 44 単位 3・4 学年 49 単位
流通情報学部	流通情報学科	124 単位	㊦・無	1・2 学年 44 単位 3・4 学年 49 単位
法学部	ビジネス法学科	124 単位	㊦・無	1・2 学年 44 単位 3・4 学年 49 単位
	自治行政学科	124 単位	㊦・無	1・2 学年 44 単位 3・4 学年 49 単位
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	124 単位	㊦・無	1・2 学年 44 単位 3・4 学年 49 単位
	スポーツコミュニケーション学科	124 単位	㊦・無	1・2 学年 44 単位 3・4 学年 49 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 :		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 :		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページにて公表

<https://www.rku.ac.jp/campuslife/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
経済学部	経済 経営	782,000 円	308,000 円	206,000 円	施設拡充費 178,000 円 実験実習費 8,000 円 課外活動振興費 20,000 円
社会学部	社会 国際観光				
流通情報学部	流通情報				
法学部	ビジネス法 自治行政				
スポーツ 健康科学部	スポーツ 健康科	782,000 円	308,000 円	356,000 円	施設拡充費 284,000 円 実験実習費 52,000 円 課外活動振興費 20,000 円
	スポーツ コミュニケーション				

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

<p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 教育学習支援センターにおける取組【HP抜粋】</p> <p>初年次教育 入学後から「RKU WEEK」と呼ばれる導入教育を行っています。ガイダンスやゼミ仲間との顔合わせ、先輩との交流企画を通して、楽しみながら大学に慣れていきます。先生や先輩が履修やキャリアプランニングの相談にもものってくれるので、どんどん質問してみよう。</p> <p>学習の支援 授業の不明点や高校時に理解できなかった科目を放っておくと、勉強の「つまずき」につながります。そこで苦手の早期解決のため、「修学基礎講座」を開設しています。また、欠席を続ける学生のフォローや、教員と連携して学生の悩みについて話し合うなど、ケアに努めています。</p> <p>特別奨学生支援（チューター制度） 特別奨学生が、全ての学生の模範となるべく勉学に励んでいます。教育学習支援センターの所員は、チューターとして彼らの勉強から日常生活の指導まで担当し、成長をサポートしています。</p> <p>受講状況の把握・フォロー スタッフは、学生が訪れるのを待っているだけではありません。出席管理システムをもとに欠席を続ける学生をフォローしたり、教員と連携して悩みを持つ学生との話し合いを重ねたり、トラブルの早期発見とケアに努めています。学生を一人にさせない。そこから私たちのサポートは始まります。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 学生の就職環境は「売り手市場」が続き、就職活動時期は年々早期化・長期化する傾向にあります。この状況を考慮し、3年生対象の就職支援プログラムの開始を早めるなど工夫してきました。4年生に対しては個別の就職指導に力を入れ、かつ学内合同企業説明会を通年開催し、年度末まで幅広い支援を継続しています。 また今春の新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オンラインでの支援も開始しました。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要) 【学生相談室】 学生相談室では、学業のこと、クラブ・サークルのこと、進路や就職、友達・家族・異性との人間関係、身体的なことや自分の性格のことなど、臨床心理士資格を有する学生相談員がお話をうかがいながら、一緒に問題解決にあたっています。</p> <p>【保健室】 保健室では、校医による「健康相談」をおこなっています（一人暮らしの食生活、健康管理やダイエットについてなどのアドバイスをしています）。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：図書館ホームページ内流通経済大学学術情報リポジトリにて公表
<https://rku.repo.nii.ac.jp/>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	流通経済大学
設置者名	学校法人 日通学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		44人	42人	44人
内 訳	第Ⅰ区分	44人	42人	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				44人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	1人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	1人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	1人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	2人
3月以上の停学	0人
年間計	2人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	4人	人	人
GPA等が下位4分の1	0人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	4人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。